

# with Dignity

金城学院の明日を見つめる [ウィズ・ディグニティ]



## 特集 1

### 「金城学院大学 KIDS センター」が誕生



## 特集 2

### 産学連携で社会に学ぶ金城学院大学

#### ■クローズアップ

人間科学部 **坪井 貴子** 教授

高等学校 **沖崎 学** 教諭



#### 2015年度 聖句 標語

『しかし、神が据えられた  
堅固な基礎は揺るぎません。』

テモテへの手紙二 第2章19節

今年2015年は、金城学院の校歌が制定されてからちょうど100年になります。「いし  
ずえをば いわおなる / 聖主にすえし 金城の」。金城学院の基礎である大きな岩は  
何か、それは主イエスである——そう歌い始める校歌は、現役生にとっては馴染み  
深い、そして卒業生にとっては懐かしく思い起こされるものではないでしょうか。

主イエスは十字架の死と復活の出来事を通して、悪には愛と赦しをもって臨み、  
そして死に対しては新しい命をもって打ち勝たれました。私たちは個々の人生におい  
て、またある時には時代に翻弄されて困難に直面することがあります。しかしその  
時にこそ、この学び舎で学び・学んだ全てと、主イエスのご生涯が証しされた聖書の  
言葉を改めて思い起こしたいのです。そこに、あなたが今とこれから、そして死に際し  
ても、揺るがされない「礎」となるものがあるでしょう。

落合 建仁 (文学部宗教主事)



# 「金城学院大学KIDSセンター」が誕生

遊びやセミナー、イベントなど多彩な活動で  
子どもの健やかな育ちをサポート

10月1日にオープンした「金城学院大学KIDSセンター」。

施設の中には広々とした遊びの広場があり、親子でのびのびと遊ぶことができます。

またセミナーや親子教室、楽しい体験などさまざまな催しが行われ、これまでも多くの親子が参加。

専門スタッフによる音楽療法や大学教員・在学生による楽しい企画なども随時開催されています。

こうしたKIDSセンターの概要や展望について金城学院大学人間科学部多元心理学科教授  
KIDSセンター長の宗方比佐子先生に伺いました。

## 異世代間の交流を育み お母さんの“学び”も提供

KIDSセンターは木をふんだんに使ったログハウス風の建物。中には良質な木のおもちゃや絵本を取りそろえた遊びの広場や砂遊びなどができる中庭があり、自由に遊べます。実際に利用されているお母さんからも「子どもとゆっくり向き合える素敵な空間です」「家にいるより子どもが

のびのびとしていて自分も気分転換になる」「木のおもちゃがたくさんあって子どもも楽しそう」と嬉しい声が聞かれます。

こうしたKIDSセンターについて、センター長を務める宗方先生は三つのコンセプトを掲げました。

一つめは「交流」です。「お母さんや子ども同士だけではなく、学生や地域の高齢者の方々とお母さん、子どもたちとの交流ができるようになればいいと思っています」

二つめは「学び」

です。親子でおもちゃを作る教室や子育てに関するセミナーも随時行われます。

## 小さな悩み相談にも対応 多方面から子育てをサポート

三つめは「相談機能の充実」です。KIDSセンターでは週一回、臨床心理士による子育て相談を行っています。またプレイスペースでお母さんたちに声をかけ、小さな悩み相談にも気軽に応じており「公的機関に相談したくてもなかなか相談できないというお母さんもいらっしゃいます。どんな悩みや不安も気軽に相談してもらいたい」と話されます。

「将来的には育児だけでなく、女性としての人生を総合的にサポートできるセンターにしていきたいと思います」と今後の展望も見据えます。地域とつながりながら、多彩な活動で子どもの育ちをサポートしていきます。



宗方比佐子先生



## KIDSセンターで開催されるさまざまなイベント

親子教室	手作りおもちゃ/親子ヨガ教室 他
子育てセミナー	育児ストレス解消法/食品に使用される色素について 他
学生イベント	みんなでおいもほりに行こう/みんなでおいもを食べよう 他
音楽療法	音楽療法セミナー 他

### 学生イベント

日比野ゼミの学生が子どもたちと一緒においもほり  
「おいもほりに行こう」を開催

お母さんも笑顔に

学生の子育て支援企画

去る10月27日、大学人間科学部現代子ども学科日比野ゼミがKIDSセンターを利用する親子を対象に「おいもほりに行こう」を開催しました。このイベントは、親子で自然に親しむ機会をと学生自身が学科の学びをふまえて企画運営をしました。当日、参加された親子は、やわらかな土の感触を楽しみながら、大きなおいもの出現に歓声をあげるなどおおいに楽しんでくださいました。KIDSセンターでは今後も学生イベントを随時開催する予定です。



### 音楽療法

音楽療法セミナー

音楽を通じて

子どもの発達を支援

KIDSセンターでは障害のある子どもの発達支援のために音楽療法を行っています。その一環として、お母さん対象の音楽療法セミナーを実施しました。音楽療法では、セラピストと子どもが音楽を通してかわることによって、さまざまな音楽の働きを利用して個々の発達を促していきます。KIDSセンターでは子どもたちが楽しみながら発達していく姿を見守ります。



セミナーを行う  
人間科学部多元心理学科の渡辺恭子先生

◎詳しくは「KIDSセンター」ホームページをご覧ください。 <http://kids.kinjo-u.ac.jp>

# 産学連携で社会に学ぶ金城学院大学

金城学院大学では、社会貢献の一形態として産学連携を実施。  
 大学が蓄積した研究成果である知的財産を社会に還元し「開かれた大学」をめざしています。  
 今回は生活環境学部食環境栄養学科の清水ゼミが企業とのコラボ弁当、  
 環境デザイン学科の弓立ゼミが介護施設の内装デザイン、  
 国際情報学部国際情報学科の庫元ゼミが和菓子の商品開発で産学連携を実施。  
 それぞれの成果をご紹介します。



## マックスバリュとの共同開発弁当

Collaboration

## 栄養学の知識を活かし、老若男女が喜ぶお弁当を開発

食環境栄養学科の清水ゼミでは、マックスバリュ中部株式会社の企画「ちゃんごはん弁当」で、夏のお弁当を共同開発しました。参加したのはゼミの4年生、丸山莉穂さんと仲山七虹さんチームと伊藤亜弥さん、島田知果さんチーム。健康に配慮し、旬の食材を使う弁当に取り組みました。



丸山さんと仲山さんは野菜をたっぷり使った弁当を企画。「愛知県の野菜摂取量は全国ワースト1。少しでも改善したいと思えました」とゴマだれで味わう夏野菜そうめんを考案。夏でも食べやすいイサキの梅しそフライやれんこんのマリネなどを添え、1日に必要な野菜の1/3を摂取できる弁当を考案しました。

伊藤さんと島田さんは魚を使った弁当に取り組みました。「若い人にも食べてもらいたい」と彩りがきれいなピカタに仕上げ、トマトソースでボリュームアップ。また、さまざまな世代に喜ばれるよう、野菜や豆類も豊富に使用。これら

の弁当は6月、7月に販売、当日は四人とも店頭販売を行いました。

今回の開発では「企業ニーズとのすり合わせが難しかった」と仲山さんは話します。丸山さんは「コストや材料が限られ、苦労しました」と振り返ります。また「お客さんに自分の思いを話し、買ってもらったときは嬉しかった」と伊藤さん、「原価、作る側、お客さんの三方向から考えるのは大変でした」と島田さんもいいます。



(左)ごちトレッシングで食べるそうめん弁当  
 (右)アジピカタ弁当

多くの人の意見を聞き開発することで、多面的なものの見方を学びました。

## デザインの学びを活かした空間へ

株式会社ジェネラスが運営するサービス付き高齢者向け住宅「スワーフ植田一本松」。その内外装デザインに生活環境学部環境デザイン学科の弓立ゼミの4年生が取り組みました。

まずは、事業内容を把握するため、高齢者施設(デイサー

ビス・リハビリ・ショートステイ・住宅型有料老人ホーム)の見学を行いました。その見学で感じたこととして、濱田千智さんは「部屋に色味が少ない印象を受けた。もっと視覚から元気になれる空間に変えたい」、代財未菜さんも「今より明るい雰囲気施設のしたい」と話します。みんなで話し合った結果、入居する方々



に喜ばれるように「今までの施設概念にとらわれない、明るい空間づくり」をめざして取り組むことになりました。

学生たちは介護される側の視点を意識しつつ、何通りものパターンを考え、外装をはじめ、内装のカラーコーディネートを提案。施主、設計者、施工主と何度も打ち合わせをしながら企画をすすめました。濱田さんは「企業の方からは、業界の常識にとらわれない若い感性を求められ、その加減や、実際の色目の調整に苦労しました」と話し、吉田奈央さんも「イメージを伝えることや、既製品との色の組み合わせに苦労しましたが、実際のお仕事に近い経験ができてよ



かったと思います」と振り返ります。代財さんは「仕事には期限があり、その期限通りにこなすのが大変でした。完成見学会ですすでに入居者がまぼ定員に達していて嬉しかったです」と達成感を感じたようです。「責任感をもって社会とかかわっていくことを感じてほしい」という弓立先生の想いを実現した、成果のあるプロジェクトとなりました。



## 青柳総本家との生ういろいろ開発

## マーケティングの学びを活かしてニーズを把握

ういろいろで有名な名古屋の老舗ブランド・株式会社青柳総本家と国際情報学部国際情報学科の庫元ゼミがオリジナルういろいろの開発に取り組みました。

制作プロジェクトはチームリーダーの生田奈緒子さんとゼミ長の真弓渚さんを中心に進行。まず最初に綿密なリサーチを実施しました。その

結果、親世代から和菓子にふれる機会が少なくなってきたことが判明。また同世

代に向けた調査では、「和菓子は敷居が高く気軽に食べられない」などの意見が聞かれました。次にゼミ生全員で会議やプレゼン、工場見学を経て製品への理解を深めつつ開発をすすめました。

パッケージに金城学院のロゴを入れるなどデザインも検討。「華やかさや高級感を出すことに苦心した」と生田さんと真弓さんは話します。

完成した生ういろいろは赤ワイン、大納言小豆、桜の三層仕立て。手軽にその場で食べられる「串ういろいろ」を用意したことも功を奏し、金城祭では約1時間30分で売り切れるほどの人

気でした。「企画し、製品化をすすめるという、現場でしか得ることのできない貴重な経験となりました」と生田さんは振り返ります。また「企業の方から多くのアドバイスをいただき、課題解決への考え方を学ぶことができました」と真弓さんも話します。庫元先生も「初めてにしては洗練された商品となりました。データをたくさん取って提案してきたのもよかつ

たと思います」と学生の取り組みを高く評価しました。

今後は本格的な商品化に向け、より高い基準をめざしマーケティングをすすめていきます。



# 4年間の多くの学びや経験を力に変えて 自ら答えを模索し、開拓できる保育者に

生まれ育った家庭環境から、「自然と教育の道を選んだ」とおっしゃる坪井先生。  
大学院時代の研究や、現在行われている小学校の生活科の研究を通して幼小連携を考察し、  
今後の幼児教育のあり方と小学校教育へのつながりについても考えていらっしゃいます。  
また授業でもご自身の研究内容を反映させながら講義を行い、  
「常に自分で答えを模索・開拓できる保育者になってほしい」と指導にあたられています。



坪井 貴子 教授

金城学院大学  
人間科学部  
現代子ども学科

上越教育大学卒業後、広島大学  
大学院教育学研究科博士課程へ。  
中九州短期大学、高松短期大学、  
関西福祉大学を経て2006年から  
現職。研究テーマは「幼児の遊び  
と学習に関する研究」「保育者の専  
門性に関する研究」「幼小連携」。  
日本保育学会ほか所属。

## 「ごっこ遊び」に注目し 大学院で教育を研究

父が教員だったことから、自分も自然と教育の道を選びました。大学も学校教育学部を選択し、小学校と幼稚園教諭の免許を取得。さらに教育の学びを深めて大学で教鞭を執りたいと思い、恩師のすすめで大学院へ進学しました。ちょうど幼児教育の重要性が注目されはじめたところで、大学における教育の需要も高まってきたころだったと思います。

大学院では子どもの「遊びによる学び」について研究、遊びの中でも特に「ごっこ遊び」に焦点を当てて考察を行いました。現実とは違い、ごっこ遊びとはあくまでも仮想の世界の中で行われます。しかし、子どもたちの行動を見ると、実にスムーズかつ現実感を持って物事が展開していきます。ごっこ遊びを通して大人を真似しながら、周りの世界を知り、人間関係を構築しているのです。それが成長してからの現実社会で役に立っていくことに興味を持ち、研究を続けてきました。

大学院修了後は短期大学へ就職しましたが、「学生たちが4年間かけてじっくりと学び、成長していく姿を見ていたい」と思うようになり、4年制の大学へ移ることを決意。縁あって、金城学院大学で教えることとなったのです。

## 生活科の授業研究を通して 幼小連携の重要性を考える

現在は、小学校1・2年生の生活科の研究を通して「幼小連携」について



### 坪井先生はどんな人!?

坪井ゼミの4年生のみなさんに先生の印象を伺いました。すると「とても親しみやすく、自分たちとの距離が近く感じられるフレンドリーな先生」との声が多くあがりました。また、「ユーモアがあって授業もわかりやすい」「物事の違った見方を教えてくれる」などの声も聞かれみなさんから厚い信頼を受ける先生の人柄を窺うことができました。



坪井先生が担当する授業の風景

考察しています。昨年、特別研究期間をいただき、さまざまな小学校の生活科の公開授業などを訪れました。いくつかの学校を見て回るうちに、そのときの自分自身の考えや思いに合う先生に出会うことができ、すぐに研究をさせていただきたいとお願いをしました。大変お忙しい先生でしたが、快く引き受けてくださいました。

生活科は、1992年から小学校1・2年生を対象に行われている授業です。たとえば1年では学校探検を行ったり、あさがおの栽培などを行います。2年生では街の探検やおもちゃの製作など、生きた教材を使って、ときには仲間と協力しながら問題解決を行い、自立の基礎を築いていきます。

これら生活科も含め、学校の授業は子どもにとっても教える側にとっても特殊な時間・空間となりがちです。しかし私が研究している授業は先生の綿密な授業計画のもとにありながらも子どもと先生の間には「本物」の生活が成り立っています。そこに大変興味を惹かれ、現在も先生が教えていらっしゃる授業をビデオで撮影して研究を続けています。

こうした生活科の授業は幼児教育と小学校教育をつなぐ重要な位置にあります。幼稚園や保育所の保育者と小学校の教員が密接な連携をはかることは子どもの成長を促す上でとても大切なことであり、昨今では幼小連携に力を入れる動きもよく見られます。今後は小学校教育まで見通して保

育を考えていく必要に迫られることでしょう。そこで、生活科の特性や子どもの学習を明らかにしながら、今後の幼児教育のあり方と小学校教育のつながりの研究へと発展させていきたいと考えています。

## 教育の学びや経験を活かし 模索し、開拓する力を養成

現在は保育所実習担当や保育原理、幼児教育学、2年生から4年生までの演習などを担当し、小学校の生活科の研究を通して、私自身の授業のすすめ方が変わってきたと実感しています。以前は一方的に講義を行うことが多かったのですが、今は学生の声を聞いて授業を組み立てることを重要視しています。たとえば演習や講義科目では、学生が発表する機会を増やして、学生が主体的に授業に取り組めるように心がけています。また学生同士の意見交換ができるようにすることで、学生自身の考えをさらに深めていき、しっかりと講義内容が理解できるように努めています。

保育とは小学校の教科や学習指導と違い、子どもの年齢が低いこともあり、遊びや日常生活の何が子どもの学びにつながるか、どこに子どもの育ちが見られるかの見極めが大変難しい分野です。保育者をめざす学生の大学での学びは子どもへの理解を深め、子どもの遊びや生活の意味、価値がどこにあるかを追求することが大切です。また保育者とは個別性の強い仕事であり、「これが正解」という答えはなく、常に自分で答えを模索し、開拓しながらすすめていかなくてはなりません。その力を大学4年間のさまざまな学びや経験を通して養うのです。

この大学にはそうした多彩な学びや経験があり、学生たちは4年間で教育の知識をしっかりと身につけて卒業していきます。どんなことでも乗り越えられる力を身につけた学生たちを送り出せることを、毎回大変誇らしく思っています。これからも多くのすばらしい保育者を社会に送り出せるように、引き続き教育の研究に携わっていきたいと考えています。

# 常に新しい自分へのChallengeを続け 愛と感謝を感じながら生きていってほしい

「本物の愛の言葉を生徒たちの心にまっすぐ届けたい」と願い、現在の道を選ばれた沖崎先生。  
高校の聖書の授業で多くの愛の話を語られる中で、  
「生徒たちの金城生としての輝きに日々驚き、感動している」とおっしゃいます。  
また宗教主事として、全校礼拝や宗教行事を通して、  
「愛も感謝も自ら探し出し、さらにはその愛と感謝を周囲の人と分かち合える人になってほしい」と  
日々生徒たちと向き合っているそうです。



沖崎  
学  
教諭

金城学院高等学校  
宗教主事

大学卒業後、明治学院中学、東村山高等学校で国語科教員として教鞭を執る。その後日本基督教団東舞鶴教会の牧師、舞鶴基督学園朝日幼稚園の園長を経て2008年に金城学院高等学校へ招聘される。現在は宗教主事として聖書の授業を担当。

## 金城生一人一人の心に届く 愛の言葉を語りたい

小学校から高校までいろいろな先生方に教わりながら、ずっと「こんな先生がいたらいい」という理想を描き続けてきました。人間として「どこまでも強く、優しく、明るい」そんな教師をめざしてこの道へとすすんだのです。

当初は国語の教師をしていましたが、「果たして本当に自分が思い描いた理想の先生になれているか」という思いが日に日に強くなってきました。自分が教師として取り組みたいことは、神さまの愛を生徒たちの心に届く言葉で語ることだと強く思うようになったのです。いったん教師をやめて神学校で学び、周りの人の大きな愛に支えられながら京都で牧師兼幼稚園園長を務めたあと、金城学院に招聘されました。

現在、高校で聖書の授業を教えています。授業では毎回、愛や喜び、感謝について話します。当たり前の日々の中にたくさんの神さまの愛や家族の愛、友人の愛が隠れていることや、愛を見つけれれば人生の困難もきっと乗り越えられることなど、神さまの愛のすばらしさについて生徒たちに語り、一緒に考えます。授業の最後にはカンキチ(感じ、気づき、知ったこと)を毎回書いてもらうのですが、たくさんの感動的な言葉を書いてくれます。生徒たちはそれぞれに複雑な問題を抱えています。心が耕され、潤い、自ら動き出したいと思えるような神さまの愛の言葉をこれからも伝えていきたいと思っています。

## 身の周りの多くの愛と感謝に 気づける人になるように

宗教主事として全校礼拝をはじめ、金城学院高校で行われるすべての宗教行事を担当しています。特に「花の日礼拝」は、生徒たちが自分の周りに愛を見出すプログラムで個人的にも好きな礼拝のひとつです。この日は、校内清掃をされている方や保健室の方、また地域でボランティア活動をしている方などいつもお世話になっ

ている方々に生徒たちが感謝の気持ちを込めて花を贈る「愛の花お届けプロジェクト」が行われます。「愛の花お届け隊」に立候補した宗教委員の生徒たちは、花を届ける方々について事前に調べ、その方々に対する感謝の気持ちを深めてから花を届けます。行事を終えたあと、全校生徒の心は“ありがとう”の気持ちでいっぱいになり、家族への感謝や友だちへの感謝など、さらに感謝すべき人々や場所を探し出すようになります。自分が持てる精一杯の愛で、周囲の人々へ働きかけたいと思えるようになるのです。

金城生はみんな、愛のセンスに富んでいると私は思います。126年という長い歴史の中で、愛の話を聞いたり、見つけたりする機会を大切にきた金城学院で学んでいるからこそ、生徒たちにこのようなすばらしい心が培われているのだと日々実感しています。ともすれば当たり前になりがちな学校生活の中で、「金城学院ってすばらしい」「ここにも神さまの愛が息づいている」と生徒たちが多くの喜びに気づけるように働きかけていくのも、宗教主事としての役割だと思っています。

## 金城学院で出会ったKey Word で常に成長し続けられる人に

こうした金城学院での日々を通して、金城生の心にもっと多くの言葉を届けたいと思い、今年2月に『キミのところに語りかける24のKey Word』という本を出版しました。聖書に登場



『キミのところに語りかける24のKey Word』

する女性の物語を取り上げて、愛や勇気や希望などのKey Wordについて書いています。タイトルの中にある「キミ」というのは金城生のことです。「キミの青春のKey Wordが人生のKey Wordになる」と本の帯に記したように、金城学院で出会う言葉の一つひとつは、これから先の人生で、自分の前の扉を開いていくKey Wordになると思います。生徒たちには授業や学校生活の中で学び、知る言葉をKey Wordに、すべての転機を成長のためのチャンスと捉え、今の自分に感謝しつつ、常に新しい自分になるためのChallengeを続けてほしいと願っています。そのためにもまず教師である自分がChallengeしなくてはと思い、本を出版するに至ったのです。

生徒たちには卒業してからも、どんなときもどこにいても、6年間で身につけてきた金城生としてのすばらしい“香り”を放ちながら、前向きに笑顔で愛を持って生きていてもらいたいと思います。まさに金城学院の制服に縫い込まれている白線のように、神さまの愛に包まれた真っ白な“White Line”の上をこれからも金城生が歩んでいくことを願っています。



## 沖崎先生はどんな人!?

生徒会執行部で宗教行事にかかわっている生徒たちに沖崎先生の印象について伺いました。すると「授業で先生のお話をきいて、すごい先生だと思いました。問題にぶつかっても先生がそこにくださると力をもらえます」との声が返ってきました。また「もうどうにもならないと思えたときにも、今からでもまだできることや、次にすべきことをかならず教えていただけます」とも。生徒たちに大変頼りにされている優しいお人柄が窺えました。

## 地域企業や公共図書館と連携し社会に貢献

地域の企業や公共施設とも連携し、さまざまな形で地域貢献を行う金城学院大学。今回は生活環境学部生活マネジメント科のイルミネーション制作と金城学院大学図書館と公共図書館との連携を紹介します。

古寺ゼミ × 久屋大通庭園フラリエ

### 久屋大通庭園フラリエを彩る イルミネーションを学生が考案

生活環境学部生活マネジメント学科の古寺ゼミが、本学薬学部網岡教授の紹介により大日本印章株式会社社長村松氏からの依頼を受け、このたび久屋大通庭園「フラリエ」のイルミネーションを手がけました。

イルミネーションはゼミの3年生がデザインを企画し、製作会社と打ち合わせを行い



ながら形にしていきました。まずは9月下旬に学生たちがフラリエを見学。あまりの敷地の広さに驚き「本当にできるのだろうか」という声も聞かれました。その後四つのグループに分かれ、芝生、遊歩道、池、外壁の4ヶ所を担当。昼休みの時間などを使ってそれぞれに打ち合わせを行いました。ツリーを作り、音楽に合わせて光らせ、また外壁には大きなハートを飾るなどさまざまなアイデアを考案。自撮り台を置いて写真スポットを作るなど「学生ならではのよいアイデアですね」と製作会社も感嘆しました。



※画像はイメージです。

「自分が考えたものを形にするのにどれだけ多くの人々の力があるか、身を持って学んでもらえたと思います」と古寺先生は話します。

11月29日には点灯式を開催。金城学院大学らしい演出としてハンドベルの演奏も行われました。学生たちの渾身のイルミネーションは今も美しく庭園を彩っています。

金城学院大学図書館 × 公共図書館

### 瀬戸市や名古屋市 の図書館と連携し 本の展示や帯作り教室を開催

大学図書館は学生ボランティアのライブラリーサポーターズ「LiLian」と協力し、各市の図書館と連携して多彩な活動を行っています。

去る8月8日～8月31日、瀬戸市立図書館

で中高生の夢を応援するティーンズ向けの展示企画「YUMEZORA～ひろがる夢、かがやく未来～」を行いました。

企画や実行は「LiLian」のメンバーが中心となって運営。中高生の憧れの職業に就いている人の生の声とその人たちのおすすめの本を紹介する「REALフラワー」、LiLianメンバーがおすすめの本を紹介する「Dreamスター」、風船型のPOPに将来の夢を書いて展示する来館者参加型の企画「Dreamパルーン」の3コーナーを作り、展示を行いました。

また9月5日には名古屋市守山図書館で小学生向けの企画「本の帯作りにチャレンジ」を開



催。子どもたちの想いを最大限に表現できるようにLiLianメンバーがサポートし、帯作りを行いました。一生懸命楽しそうに取り組む子どもたちが印象的でした。

10月3日～11月8日は名古屋市志段味図書館で中高生向けのおすすめ本をかわいの手作りPOPとともに展示。愛らしいPOPに惹かれ、本を手取る中高生の姿も見られました。3月には同図書館にて、ブックパーティも開催予定です。

大学図書館はLiLianとともに今後も本と人をつなぐ、さまざまな活動に取り組んでいきます。



## 想像力豊かな遊びを通して 年上児から年下児へ 伝えられる知恵や経験

家庭ではひとりっこだ多い現代ですが、幼稚園では異年齢での生活を通して年上児・年下児が互いに思い合い育ち合う関係を築いています。子どもたちが遊びを通して様々なことを年上児から年下児に伝えていることを、こんなエピソードから感じていただければと思います。

幼稚園に通う子どもたちは「おだんご」を作ることが大好きです。土も粘土も砂も豊富にある園庭では、1年を通しておだんごづくりをする子どもたちの姿が見られます。おだんごをたくさん作って「おだんごやさん」をしたり、トッピングをして「ケーキやさん」になったり、いくつか組み合わせさせてキャラクターを



いっしょにおだんごづくりをする年長児と年少児

作ったり、一つを慎重に丁寧にピカピカに仕上げ光るおだんごを作ったり…子どもたちの想像力は本当に豊かです。ある「おだんごやさん」では、できたおだんごを「これは小さいから1歳さん用ね。」「こっちは4歳かな?」と大きさごとに並べていました。店番をする子どもたちの「いらしゃいませ。お金は葉っぱです。」の声に、近くで遊んでいた子どもが落ち葉を集めて買いに来てくれました。

入園して間もない年少児にとって、年中児・年長児の手からのぞくおだんごは魔法のようで「どうしたらできるのだろう…」と、見よう見まねで砂を集めていました。しかし、水分の少ない砂をいくら握っても、なかなか固まってくれません。そんな年少児に「お水がないと固まらないよ」とアドバイスしてくれたり、自分たちが用意したバケツの中の土(丁度いい湿り具合)を分けてくれたりする年長児。その土の感触を体得して、次に作る時は自分で砂に水を加える年少児。子どもたちには、直接的な言葉でなくても、実際に見たりふれたりしていく中で経験を積み重ね自分



おだんごいかが? お代は落ち葉で

のものにしていく力が十分に与えられていることを感じます。

子どもたちは丸めてできた土のおだんごに白砂・さら砂をかけていきます。この作業ひとつでも子どもたち一人ひとりの特徴がよくわかります。目の細かいざるで濾した砂だけを使う子ども、乾いている砂をとにかくたくさんかける子ども、乾かすためにさら砂の中におだんごを埋めて取り出す子どもなどさまざまです。どの子どもも今までに年上児から直接教えてもらったり、年上児のおだんご作りの過程をじっと見ている中でやってみようとする思いや方法を身につけたりしているのです。

こうして子どもたちの間で遊びや「こうしたらできるんだ!」「こんな方法があるんだ!」という経験が直接的、間接的に伝えられています。普段の生活を異年齢で過ごしている子どもたちが、こうした豊かな経験をしていることを嬉しく思っています。

## 自発的な遊びと「あつまり」をつなげて 子どもたちの経験や成長を より豊かなものに

上記の活動のように、3・4・5歳の子どもたちが一緒に過ごす縦割りの活動に加え、発達段階を捉えより多くの刺激となるために、週に二回ほど同学年での活動(私たちは「あつまり」とよんでいます)を行っています。

ある日の年少児の「あつまり」では、お花紙といわれるやわらかい和紙を使っておだんごを作りました。片手に乗せたお花紙をもう一方の手で挟んでクルクルと丸めていきます。いつもは泥や粘土でおだんごを作っている子どもたちにとって「紙からおだんごができるなんて!」と驚きの表情を見せる子どももいました。おだんごを作るだけでなく、新しい素材にふれる機会にもなりました。普段は泥が嫌い、手が汚れるのが

嫌と泥だんご作りを経験せずにいる子どもも楽しく経験することができました。

「あつまり」のなかで保育者は、同年齢での活動のねらいのもとで一人ひとりの発達段階を捉え、適切な課題を提供できるようにしています。子どもたちにとってそこの活動は、普段の遊びの中で新しい刺激になっています。お花紙のおだんご作りを経験した子どもたちは、早速空き箱製作の飾りに折り紙を丸めてくっつけていました。ほかにも紙粘土をつかってアクセサリーをつくらしたり、保護者の保育参加の機会に本当に食べられるおだんごを作ったり、その経験のあとには家庭でもおだんご作り挑戦した子



おうちの方と一緒に  
おだんごクッキング

ももりました。おだんご作りの経験をいろいろな場面で、素材も土や砂、粘土、紙、食材などさまざまなもので繰り返すことによって、経験を深め、幅が広がっていきます。「あつまり」のなかだけでは終わらずに子どもたちの普段の遊びや生活につながっていることを嬉しく思っています。幼稚園では自発的な遊びと「あつまり」は切り離されたものではなく、子どもたちの生活の中で互いにリンクさせながら、子どもの成長をより豊かに促しています。

## 平和のために署名活動を行う広島女学院の生徒が来校 ひとつの「ファミリー」として、ともに平和を考える

中学と高校では毎年8月20日に全校礼拝を行い、平和についてみんなで考えています。今回、広島女学院高校署名実行委員会の生徒たちが「平和について一緒に話す機会を持ちたい」と来校。ともに平和について話し合い、署名活動を行いました。

今回の企画の中心となったのは生徒会執行部で結成された「PEACE隊」。「ぜひ、何か一緒にできることはないか?」とスカイプを使って広島女学院の生徒たちと打ち合わせを行いました。「同じ高校生でも平和について細部まで考えていると実感しました」と高校3年生で宗教常任委員長を務める稲垣亜梨さんはいいます。また同じく3年生で生徒会長の筒井愛理さんは「金城学院でも東日本大震災の支援活動を行っています、広島女学院のみなさんと話をするうちにこの活動も平和活動の一つではないか」と改めて考えました。



今回の活動で出会った人々が全員つながるという意味を込めてキーワードを「ファミリー」とし、お互いに何度も話した結果、一緒に街頭で署名活動をする事になりました。

広島女学院の生徒たちは8月19日に来校。栄や名駅でともに街頭署名活動を行いました。初めての署名活動に戸惑うこともありましたが、2校の生徒が一緒になって大声で呼びかけ、署名する人も徐々に増加しました。「今回は1時間でしたが、もっと署名活動をしたかったです」と筒井さんは話します。

20日の礼拝では、全校生徒の思いを一つに結び合わせたお祈りを、ともに手を取り合って神さまに捧げました。そのあとのロングホームルームでは広島女学院の活動や金城学院の東日本大震災支援活動をプ



レゼンしました。愛と感動、希望にあふれた全校礼拝となりました。

9月には広島女学院の生徒たちから感謝の言葉が綴られた手紙には、一つひとつの言葉が愛にあふれていました。今後も両校が手を取り合い、さらなる祈りの輪、ファミリーの輪が広がることを願っています。



## 中学校テニス部が東海大会で優勝・全国大会に出場



去る10月3日、三重県四日市市の北勢中央公園で行われた「東海私学中学校テニス大会」に中学校テニス部が出場しました。

この大会は各県の私学テニス連盟の推薦を受けた私立中学校の中学1・2年生のみに参加資格が与えられるもので、東海地区での開催は今回が初。愛知、岐阜、三重、静岡の4県から私立の推薦校12校が集まり、ダブルス二本、シングルス一本の試合を行いました。

初戦は三重県3位の實力を誇る津田学園中学校に2-1で勝利。準決勝は同じく三重県2位の鈴鹿中学校に3-0と快進撃を続け、決勝は静岡2位の浜松日体中学校に3-0で見事優勝に輝きました。特に決勝では一本目の

ダブルス、シングルスでそれぞれ勝利、この時点で優勝が決まっていたが、生徒たちはそこで気を抜くことなく残りのダブルスも最後まで粘って勝つことができたのです。選手一人ひとりがチームのことを考え、コーチのアドバイスをしっかりと聞いて一生懸命プレーしました。

この試合の結果、兵庫県神戸総合運動公園で12月26～28日に行われる全国私立中学校テニス選手権大会の出場権を獲得。新校舎建築で練習場所が限られていますが、今後も厳しい練習に耐え、先輩方にも練習相手になっていただきながら勝利に向けて努力を重ねていきます。

## 高校科学部の「ゆめちから栽培研究プログラム」 栽培研究や収穫の成果をプレゼンで発表



高校の科学部が昨年9月から取り組んできたPasco主催の「ゆめちから栽培研究プログラム」。北海道で開発された国産の強力小麦「ゆめちから」をプランターで育て、実験や分析などを行いながら最適な栽培方法を研究するプログラムで、金城学院高校のほか、石川県、岐阜県の高校と3校でプログラムを実施しました。

「ゆめちからグループ」の生徒たちは4月の播種(種蒔き)にはじまり、ゴールデンウィーク明けの出穂、9月の刈り取りと世話をしてきました。特に大変だったのは毎日の水やり



です。生徒たちは四つのグループに分かれ、当番制で水やりを実施。穂の高さ測定や生育状況の観察も行います。「移動



教室のときは時間がなくて本当に大変でした」と3年生の田中杏奈さんは振り返ります。また栽培の様子を記録するブログを担当した3年生の武藤詩奈さんは「楽しくブログを作りました」といい、他校の生徒ともブログ上で意見交換をしながら栽培を行ってきました。また2年生の前田真歩さんは「小麦を脱穀するとき、小さな虫がたくさんついていて大変でした」と話します。一本ずつ手でしごきながら種子を取る作業は想像以上に大変だったようです。



9月23日にはPasco本社で3校によるプレゼンテーションが行われ、生徒たちは仮説から実行、結論をまとめた栽培記録

をプレゼンしました。「他校は気温や草丈などのデータも多くあり、見習うところがありました」と田中さんは話します。また今回、収穫したゆめちからのタンパク質の含有量が目標の12%を見事クリアし、Pascoから表彰されました。

顧問の田中武彦先生は「生徒たちは本当によく頑張って研究してくれました」といい、また前田さんはこの栽培研究を通して「みんなで協力することが大切だと実感しました」、田中さんは「農家さんのお仕事の大変さ、すごさをあらためて知りました」、武藤さんは「データをまとめる作業は大変で、研究者の方々はずごといいと思いました」とそれぞれに学びを得ました。製粉されたゆめちからは「みんなでパンを焼いて味わう」とのこと。充実した研究となりました。

## 中高大のバトン部、そろってバトントワーリング全国大会に出場!

去る10月24日(土)、日本ガイシホールにて開催された「第41回マーチングバンド・バトントワーリング東海大会」において、バトン部が全国大会に推薦されることになりました。

昨年、一昨年同様、今年も高校バトン部だけではなく、中学校部門では中学バトン部が、大学部門では「金城学院大学White Wall」が推薦され、3年連続、三チームそろって全国大会に出場できるという幸いを与えられました。

「第43回バトントワーリング全国大会」は12月12日(土)、千葉市の幕張メッセ・イベントホールにて開催されます。大会で行う演技だけではなく、すべてにおいて支え合う中高大バトン部でありたいと考えております。これまでバトン部を応援して下さった皆様に深く御礼申し上げますとともに、今後も温かい御声援をよろしくお願ひいたします。



# ～金城学院目的指定寄付金～

この度は、金城学院へのご寄付、心より感謝申し上げます。今号では、2015年6月から2015年10月末日までにご寄付いただいた方々のご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。

今、日本の教育現場そして金城の生徒・学生たちが卒業して活躍する社会環境は、日々変化しています。移り変わる時代に対応するために、金城学院では、諸設備及び教育

研究環境の充実を図り、教育効果の向上を期するための取り組みを行っております。

2012年度より10年かけて中高大の教育施設の大規模リニューアル(KMP21)を進めています。また、金城サポート奨学金をはじめとして14種もの独自奨学金制度を用意し、約1600人の学生・生徒が利用しています。内外の教育環境の充実を図り、学生・生徒たちが安心して学び、過ごせる学院づくり

を推進しています。

これらの取り組みを推進またはサポートするためには多大な経費が必要です。福音主義キリスト教に基づく女性教育、全人教育、国際理解の教育の想いを堅持してきた先人たちの想いを確実に次につなげるため、教職員一同より一層努めてまいりますので、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 寄付金ご芳名録 (2015年6月～2015年10月末日までにいただいたご寄付をご報告させていただきます)

分	部	尾	上	志	村	澄	江
奥	藤	定	男	家	田	慶	子
近	田	雅	之	坂	口	龍	一
岡	藤	彩	香	中	野	崇	子
加	藤	伊	津	小	幡	桃	子
茅	壁	幸	子	南	馬	昭	子
田	中	せい	子	馬	場	熙	子
松	永	昌	子	今	枝	浩	子
富	永	辰	夫	光	崎	聖	季
日	田	美	知	豊	田	江	美
鯉	江	和	成	関	田	学	一
種	田	美	佳	西	垣	英	子
林	立	哲	敦	平	幸	子	雄
立	木	敦	春	垣			
伊	藤	春		稲			

櫻	井	瑞	穂
鈴	木	紀	代
水	野	久	子
森	野	真	子
上	野	優	実
猪	飼	淑	子
柴	田	陽	子
後	藤	真	一
宮	之	光	枝
長	原	里	子
谷	川	由	紀
横	山	美	和
江	場	訓	子
上	川	洋	子
中	島	典	子
大	見		

井	上	瑞	穂
初	田	邦	子
神	谷	知	子
朝	田	晃	代
三	浦	み	枝
大	久	久	子
宮	澤	淑	子
矢	野	裕	美
中	川	昭	子
吉	田	千	鶴
伊	佐	時	子
浅	野	隆	久
大	勢	博	子
肥	後	桂	子
渡	邊	喜	代

羽	田	愛	子
佐	伯	卓	代
矢	吹	三	千
宮	村	麻	衣
後	藤	貴	子
磯	部	昭	子
森	田	皓	三
大	島	賢	子
勝	栗	玲	子
栗	田	祐	己
加	藤	歌	子
86	年	卒	保
卒	保	育	科
同	窓	会	
樋	田	洋	子
坂	清	子	
大	日	本	印
大	日	本	印

寄付者	件数
卒業生	52
在校生父母	14
一般有志	2
教職員	3
その他	10
総計	81

寄付目的	金額(円)
学生・生徒へ	180,000
キャンパス環境整備へ	88,000
文化事業へ	285,000
国際交流へ	40,000
地域との交流へ	30,000
学院全体へ	365,000
その他	6,000,000
指定なし	2,077,558
総計	9,065,558

(敬称略 順不同)

# ～金城学院維持協力会～

金城学院維持協力会は、「金城学院の教育活動に対する支援と、さまざまな社会環境の変化に対する適切な助言を行うことによ

て、金城学院の維持・発展に寄与すること」を設立の趣旨とし、2011年度に発足されました。現在、東海地区を代表する有力企業など

法人会員77社、個人会員9名にご賛同いただき、ご入会いただいております。

## 維持協力会ご芳名録

### ■ 法人

愛知株式会社  
愛知警備保障株式会社  
アット・ワンス株式会社  
天野商事株式会社  
医療法人高田 ライフ健康クリニック  
大沢フォート  
株式会社アイワット  
株式会社アド・アート  
株式会社アドマテックス  
株式会社オティックス  
株式会社カミヤマ  
株式会社河合楽器製作所  
株式会社キクタケ  
株式会社杏林堂薬局  
株式会社きんでん 中部支社  
株式会社コネクティブ  
株式会社sus4  
株式会社三見社  
株式会社産通 名古屋支店  
株式会社シーアールイー  
株式会社シーオーイー  
株式会社ジェイエスティ  
株式会社正文館書店  
株式会社進研アド  
株式会社新東通信  
株式会社スギヤマ薬品  
株式会社瀬古写真館  
株式会社大学通信  
株式会社中央製作所

株式会社中京テレビサービス  
株式会社中部キャラバン  
株式会社トーエネック  
株式会社中日本造園土木  
株式会社名古屋観光ホテル  
株式会社名古屋銀行  
株式会社名古屋ピアノ調律センター  
株式会社日本ドリコム  
株式会社プランナーズランド  
株式会社朋和商事  
株式会社マイナビ  
株式会社三井住友銀行  
株式会社三菱地所設計  
株式会社名北調剤  
株式会社八神製作所  
株式会社ヤマハミュージッククリティリング  
教育産業株式会社  
近畿日本ツーリスト株式会社  
名古屋教育旅行支店  
金城学院大学生協同組合  
グリーンシティケーブルテレビ株式会社  
サンメッセ株式会社  
敷島製パン株式会社  
スギホールディングス株式会社  
セクダム株式会社  
瀬戸信用金庫  
大成建設株式会社 名古屋支店  
大成有楽不動産株式会社 名古屋支店  
ダイダン株式会社 名古屋支店

たんぼぼ薬局株式会社  
中央電気工事株式会社  
中部電力株式会社  
電子システム株式会社  
東海東京証券株式会社  
東邦ガス株式会社  
東洋熱工業株式会社 名古屋支店  
トリニティー株式会社  
名古屋トヨペット株式会社  
名古屋ビルサービス株式会社  
日本管財株式会社  
日本調剤株式会社  
ネットヨタ東名古屋株式会社  
(キリックグループ)  
福玉精穀倉庫株式会社  
丸善株式会社 名古屋支店  
三菱電機株式会社 中部支店  
メイティックス株式会社  
盛田エンタプライズ株式会社  
有限会社永井抱陽写真館  
リンナイ株式会社

### ■ 個人

浅井清司 大島寅夫 野田清衛  
橋本修三 岡本浩延 山田隆雄  
吉田大士 吉岡 肇



# Christmas Special Calendar

## 金城学院大学

### クリスマスツリー点灯式

- 日時／11月30日(月)  
16:45～17:15
- 奨励者／河原清志先生(文学部准教授)
- 特別讚美／大学クワイア、  
大学ハンドベルクワイア



### オルガンミニコンサート

- 日時／11月30日(月)  
17:30～18:00
- 場所／エラ・ヒューストン記念礼拝堂
- 奏楽／有田知子氏  
(大学礼拝オルガニスト)

### 大学クリスマス礼拝

- 日時／12月17日(木)  
17:00～18:00
- 場所／アニー・ランドルフ記念講堂
- 説教者／横山良樹先生  
(日本基督教団半田教会牧師)
- 特別讚美／大学クワイア、  
大学ハンドベルクワイア



### 第26回ハンドベルクワイア クリスマスコンサート

- 出演／大学ハンドベルクワイア
- 日時／12月5日(土)  
16:45 開場 17:30 開演
- 場所／アニー・ランドルフ記念講堂
- 曲目／クリスマス・フェスティバル、  
花のワルツほか
- 入場料／1,500円(全席自由)  
チケットぴあ <http://pia.jp/t>  
TEL.0570-02-9999  
(Pコード 266-282)
- ※誠に勝手ながら、未就学児のご入場は  
お断りさせていただきます。
- お問い合わせ先／  
大学ハンドベルクワイア  
TEL.080-4549-6139  
平日 9:30～17:00



## 金城学院高等学校

### キャロリング

- 出演／高校グリークラブ  
(中学グリークラブも出演します)
  - 日時・場所／  
◎12月12日(土) 12:00、14:45、17:00  
中日ビル(中学3年以上)
  - ◎12月17日(木) 17:15  
名古屋通信病院(中学3年以上)
  - ◎12月22日(火) 17:15  
公立陶生病院  
(中学1年～高校3年全員)
  - ◎12月24日(木) 13:30  
SMBCパーク栄(高校生のみ)  
鑑賞希望者は要予約
  - ◎12月24日(木) 16:30  
ミッドランドスクエア  
(中学3年以上)
  - ◎12月25日(金) 11:30、13:30  
ラシッククリスマスステージ  
(中学3年以上)
  - ◎12月25日(金) 16:30  
ミッドランドスクエア  
(中学3年以上)
- 備考：開始時刻は変更されることがあります。

### クリスマスハンドベル演奏

- 出演／高校ハンドベルクワイア
- 日時・場所／  
◎12月6日(日) 10:00  
日本キリスト教団枇杷島教会
- ◎12月12日(土) 13:30  
日本キリスト改革派犬山教会
- ◎12月13日(日) 10:30  
日本キリスト教団尾張一宮教会
- ◎12月13日(日) 11:00  
日本キリスト教団南山教会
- ◎12月19日(土) 14:00  
金城学院幼稚園
- ◎12月19日(土) 14:30  
名古屋港水族館
- ◎12月23日(水) 14:00  
日本キリスト教団刈谷教会
- ◎12月24日(木) 10:30  
キリスト教社会館発達センターあつた
- ◎12月24日(木) 15:00  
名古屋記念病院
- ◎12月25日(金) 15:00  
ラシッククリスマスステージ



### ハンドベルクワイア定期演奏会

- 出演／高校ハンドベルクワイア  
(大学及び中学ハンドベル  
クワイアも賛助出演します)
- 日時／12月22日(火)  
17:30 開場 18:00 開演
- 場所／中電ホール
- 入場無料

### (予告)グリークラブ第37回定期演奏会

- 日時／2016年3月25日(金)  
17:15 開場 18:00 開演
- 場所／愛知県芸術劇場コンサートホール

## 金城学院中学校

### ハンドベルクワイアのクリスマス

- 出演／中学ハンドベルクワイア
- 日時・場所  
◎12月5日(土) 15:00～  
NTT西日本東海病院
- ◎12月12日(土) 10:00～  
名古屋刑務所
- ◎12月13日(日) 14:00～  
栄聖書教会
- ◎12月19日(土) 13:00～14:30～  
博物館明治村
- ◎12月22日(火) 18:00～  
高等学校定期演奏会賛助出演
- ◎12月24日(木)・25日(金) 15:30～  
ミッドランドスクエア  
クリスマスコンサート



## 金城学院幼稚園

### クリスマス讚美礼拝(親子)

- 日時／12月17日(木) 9:50～
- 場所／幼稚園



### クリスマスハンドベル演奏

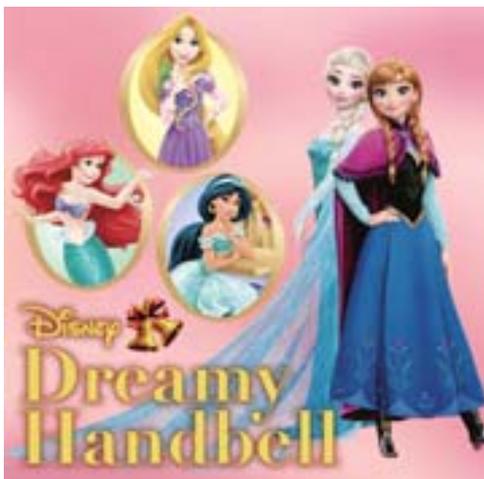
- 出演／金城学院幼稚園  
ハンドベルクワイア
- 日時／12月25日(金) 時間未定
- 場所／ラシッククリスマスステージ

### クリスマス親子礼拝

- 日時／12月19日(土) 13:30～
- 場所／金城学院大学  
アニー・ランドルフ記念講堂
- プログラム／  
●礼拝  
●金城学院高校ハンドベルクワイア  
ミニコンサート  
●年長児キャロリング  
※15:30頃より名鉄瀬戸線大森・  
金城学院前駅にて

## 高等学校演劇部が 中部日本演劇大会出場決定

高等学校演劇部は、愛知県大会を勝ち抜いて、第68回中部日本高等学校演劇大会に出場することが決まりました。大会は、石川県野々市市で、12月24日から27日に開催されます。



©Disney

## 金城学院大学 ハンドベルクワイアの演奏する CDが発売されました

### Disney Dreamy Handbell / V.A.

ディズニー音楽をハンドベルでカバー。心にやさしいハーモニー

Disney Dreamy Handbell / V.A.

ディズニードリーミーハンドベル / V.A.

発売日:2015年11月4日発売

品番:AQW1-51123 JANコード:454211451123/3

定価2100円(+税)

全19曲収録(詳細は右のQRコードからご覧ください)

★生協カタログ・mu-moショップ限定商品



(収録内容など、詳細はこちら)

### クリスマスメッセージ

「神はその独り子  
お与えになったほどに、  
世を愛された」

ヨハネによる福音書第3章16節

### 『 最上の贈りもの 』

ドイツから日本にもどって感じたことはクリスマスの贈り物の違いだった。日本ではクリスマスの休暇の後で子どもたちは「クリスマスにどんな贈り物もらったか」を自慢する。ところがドイツでは「何を誰に贈り、どんなふうによびられたか」を自慢する。私はもう十分にいただいたのだから、今度は差し出したいと言うのだ。私たちは、神が愛する独り子を人類の救済のために送ってくださった日としてクリスマスを祝う。それは正しい。しかし忘れてはならない。人間が得るために、失った神がおられることを。人類が史上最大の贈り物を神からいただいたその日に、愛する独り子を神は失ったのだ。演出されたクリスマスに魅惑されるだけではなく、天上におられ、愛する独り子までも差し出しされた神を思うクリスマスを迎えたい。だからパウロはいう。「受けるより、与える方が幸いである。」

深井智朗 (人間科学部宗教主事)

本誌「with Dignity」は、金城学院のホームページ  
(<http://www.kinjo-gakuin.jp/>)でもご覧いただけます。

ご意見、ご感想をお寄せください。

(また、現在お送りしております方で、住所変更や購読中止を希望される方も  
ホームページからご連絡ください。)

### みどり野会(同窓会)より

みどり野会は1903年に設立された、金城学院の卒業生が集う会です

〈みどり野会〉という名称は大正9年(1920年)

旧約聖書の詩篇第23編から名付けられました

「主はわが牧者なり われ乏しきことあらず

主は我をみどりの野にふさせ

いこいの水濱にともなひたまふ」

神さまによってこの学院に集められた私たちが

卒業後母校に集まり いこいの時を過ごす場という意味で

「みどり野会」はいつも皆さんと共にあります

### みどり野会行事のお知らせ

#### クリスマス讃美礼拝

■日時/2015年12月12日(土) 10:30~14:00

■場所/金城学院中学校 白百合館礼拝堂

(愛餐会は白百合館1階ホールにて)

■礼拝/日本キリスト教団南山教会 村山盛芳牧師

■演奏/声楽家 松谷友香さん(卒業生)ミニコンサート

※白百合館へのご来場は「公共交通機関」をご利用ください

#### 2016年度 総会

■日時/2016年4月16日(土)10:00~14:00

■場所/ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋にて

■礼拝/金城学院文学部宗教主事 落合建仁先生

#### 2016年度 修養会

■日時/2016年7月9日(土)現地集合

■場所/日本キリスト教団広島教会

■礼拝/日本キリスト教団隠退牧師 宗藤尚三先生

＜お問合せはみどり野会事務局まで＞

本部 TEL052-931-4480(中学校白百合館1階)

分室 TEL052-798-0193(大学本部棟4階)

HP <http://www.kinjo-midorino.com>

※活動詳細は会報「みどり野7号」をご覧ください

#### 訃報

Arlene Woods Kelly先生(故Merle Irwin Kelly 先生の奥様)が、

2015年11月8日に天に召されました。

先生は、1981年4月から1990年3月まで、

中・高教諭(宣教師・英語)として在職されました。

ご遺族様の上に、主のお慰めをお祈りいたします。